

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本語コミュニケーション II B(0210)	
科目基礎情報							
科目番号	0065		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	機械工学科		対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	1			
教科書/教材	①『多文化世界- 違いを学び未来への道を探る-』(有斐閣) ②『理科系の作文技術』(中公新書) ③『論文の教室』(NHKブックス) ④『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』						
担当教員	戸田山 みどり, 齋 麻子, 海野 かおり						
到達目標							
コミュニケーション能力を高める。(特にプレゼンテーション力を身につける) 小論文・研究論文を書く力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	コミュニケーション能力を高めることが主体的にできる。		コミュニケーション能力を高めることができる。		コミュニケーション能力を高めることができない。		
評価項目2	特にプレゼンテーション力を身につけることが主体的にできる。		特にプレゼンテーション力を身につけることができる。		特にプレゼンテーション力を身につけることができない。		
評価項目3	小論文・研究論文を書く力を身につけることが主体的にできる。		小論文・研究論文を書く力を身につけることができる。		小論文・研究論文を書く力を身につけることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達目標 C-1 学習・教育到達目標 D							
教育方法等							
概要	グローバル化が叫ばれる今日、多様な文化を理解し、他者とコミュニケーションをとる必要がある。特に理科系の学生が社会に出てから必要になるコミュニケーション能力について、基礎的な理解を広げ、自分の考えを論理的に述べ、情報を収集整理し、正確に伝える力を養う。3年次よりも進路や研究論文などでの文章表現を意識し、より実践的な力を身につける。聴衆の前でプレゼンテーションを行い、限られた時間で人をひきつける力を養う。						
授業の進め方・方法	実際に1つのテーマを個々に設定し、論文を書きあげていく。授業の中で構成や論文に関する基本事項を理解するとともに、何度か添削を行い、よりよい論文を完成させる。また、自己をPRできるプレゼンテーションを行う。						
注意点	春学期のうちに提案した論文課題について、冬学期開始時にテーマを決定して受講すること。また、授業中には論文執筆および論文執筆のための資料読解の機会は設けないため、自学自習を必要とする。また、就職進学に必要な自己をPRするためのプレゼンテーションを実施するため、積極的な取り組みが必要である。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・テーマ決定 今後の論文執筆にあたっての諸注意				
		2週	テーマ決定 今後の論文執筆にあたっての諸注意				
		3週	引用について/参考文献について				
		4週	引用について/参考文献について				
		5週	アブストラクト				
		6週	アブストラクト				
		7週	論文推敲				
		8週	論文推敲				
	4thQ	9週	論文推敲/自己PRポスター作成<準備>				
		10週	論文推敲/自己PRポスター作成<準備>				
		11週	論文提出/自己PRポスター作成				
		12週	論文提出/自己PRポスター作成				
		13週	自己PRポスター発表プレゼンテーション練習				
		14週	自己PRポスター発表プレゼンテーション練習				
		15週	自己PRポスター発表会(補講日に4クラス一斉実施)				
		16週	自己PRポスター発表会(補講日に4クラス一斉実施)				
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3		
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3		
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3		
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。	3		
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的文章(詩歌、小説など)の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3		
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やもの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3		

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3	
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	2	
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	2	
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。また、それらに親しもうとすることができる。	2	
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	2	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
	社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3				
	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	3	
ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。				3		
現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。				3		
現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。				3		
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3		
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3		
			日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3		
			ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3		
			学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3		
			市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3		
			チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3		
			組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3		
先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3					

			<p>目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。</p>	3	
			<p>法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。</p>	3	
			<p>法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。</p>	3	
			<p>未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会的な在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。</p>	3	
			<p>技術の発展と持続的社会的な在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。</p>	3	

評価割合

	論文提出	課題	発表				合計
総合評価割合	40	30	30	0	0	0	100
基礎的能力	40	30	30	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0